



# 学校だより 本荘

令和5年度 第62号  
令和6年3月18日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

最後の総仕上げ。卒業式の練習にも熱が入ります。6年生の最後の授業なのです。



先週は、毎日、卒業式の練習をしました。そして、金曜日は卒業式予行。いよいよもって、6年生との時間が残り少なくなってきました。写真はその時の様子です。左下の写真は、先々週のお別れ会の時に欠席していた6年生へ感謝状を贈呈しているところです。インフルエンザの流行もあって、卒業式練習の間も、6年生がなかなか全員揃うことがなかったのです。子どもたちに責任はありませんので、その場にいるもので、しっかりと練習をしていきました。休んでいた子どもたちが戻ってきたときに安心して式ができるようになります。在校生のみなさんも大変頑張りました。他校ならば、式に参加するのは5年生だけでしょう。まだまだ肌寒い季節です。低学年の子どもたちは、その寒い中を一生懸命に練習に参加してくれました。ありがとう。

今年度の卒業式は、令和になって初めてになる、ご来賓もお呼びしての卒業式となります。コロナが明けて、ご家族の人数制限もなく、地域の皆様、中学校、保育園の先生方をお呼びして、卒業生の立派な姿を見せたいと思っています。そのために、6年生の担任をはじめ全職員でしっかりと指導をしています。

金曜日の予行の後に、子どもたちにこんなことを指導しました。「一生懸命に練習に参加している人が多いのはとてもうれしく思います。しかし、この中で、どれだけの人が、6年生のことを想って、『本気』で参加しているのでしょうか。歌にしても、クラスでどれだけ『本気』で練習してきましたか？（裏面に続きます）」

もう後、二日で6年生は卒業します。自分たちにできることを考えてください。」と子どもたちに伝えたのです。もしかすると、校長先生から叱られたと感じた子どもたちもいたかもしれません。「自分は大丈夫、校長先生が言っているように歌もしっかり歌ったし、送る言葉も大きな声で心込めて言えた！」と心の中で自信を深めた子どももいたでしょう。校長先生は事実を伝え、そして、校長としての想いを子どもたちに伝えました。どう判断するかは、一人一人の子どもが考えることです。そこが、子どもの成長につながります。

予行が終わった5時間目、校長先生は本荘コミセンで会議があったので、その帰り運動場を歩いていました。すると、どの教室からでしょう。在校生の歌を練習している歌声が聞こえてきました。とてもうれしく思いました。担任の先生の後押しや指導もあったかもしれません。でも、「こうあってほしい」という願いに応えようとする子どもたちがいるのです。本荘の子どもたちのすばらしさを改めて実感しました。

6年生の担任が多かった校長先生は、「卒業式は最後の授業。だから、君たちは先生方にやらされる卒業式ではだめなのだよ。在校生に対しても誠実に協力をお願いしないと。大切なのは、自分たちですばらしい式にしようということだよ。そのかわり、そのためのバックアップや指導は必ず先生が引き受けるからね。」とよく語っていました。そのために、学年では「卒業式実行委員会」が結成され、練習の司会や毎回の練習のめあて、呼びかけの練習も自治的な活動としてやっていました。

春の訪れを感じるよい天気でした。運動場を歩きながら、子どもたちの頑張りを実感することができた校長先生は、大変幸せな気持ちになりました。(校長)

## 校長先生の虫眼鏡 「お掃除教室がありました」

毎年恒例となった感のある花王さんによる、卒業前のお掃除教室のスナップです。6年間お世話になった校舎をしっかりときれいにしてくれた6年生のみなさんでした。

